



【自転車事故発生時のヘルメット着用状況について】

改正道路交通法の施行により、2023年4月1日からすべての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化となり約半年が経過したことから、管内の自転車事故による救急事故発生時のヘルメット着用の有無を以下のとおりまとめましたのでお知らせします。

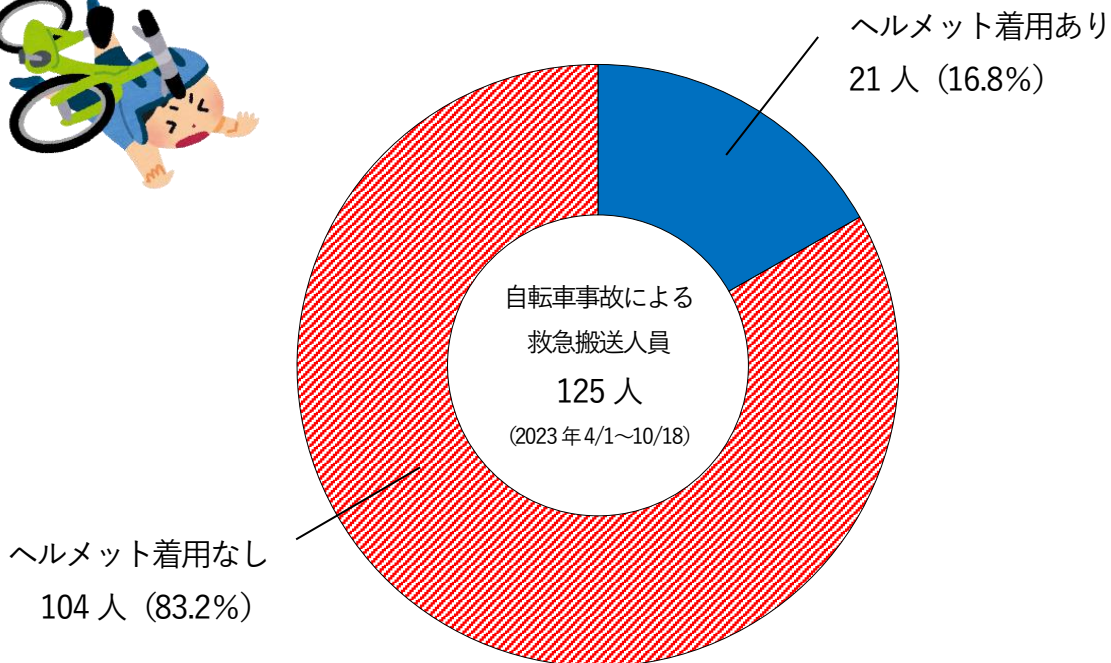
※ 救急搬送人員は、現場処置等により不搬送となった者を含む。

※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値で表記。

■ 自転車事故による救急事故におけるヘルメットの着用率

郡山地方広域消防組合管内では、2023年4月1日から10月18日までの期間、自転車事故による怪我で125人が救急搬送されています。（現場処置による不搬送も含む）

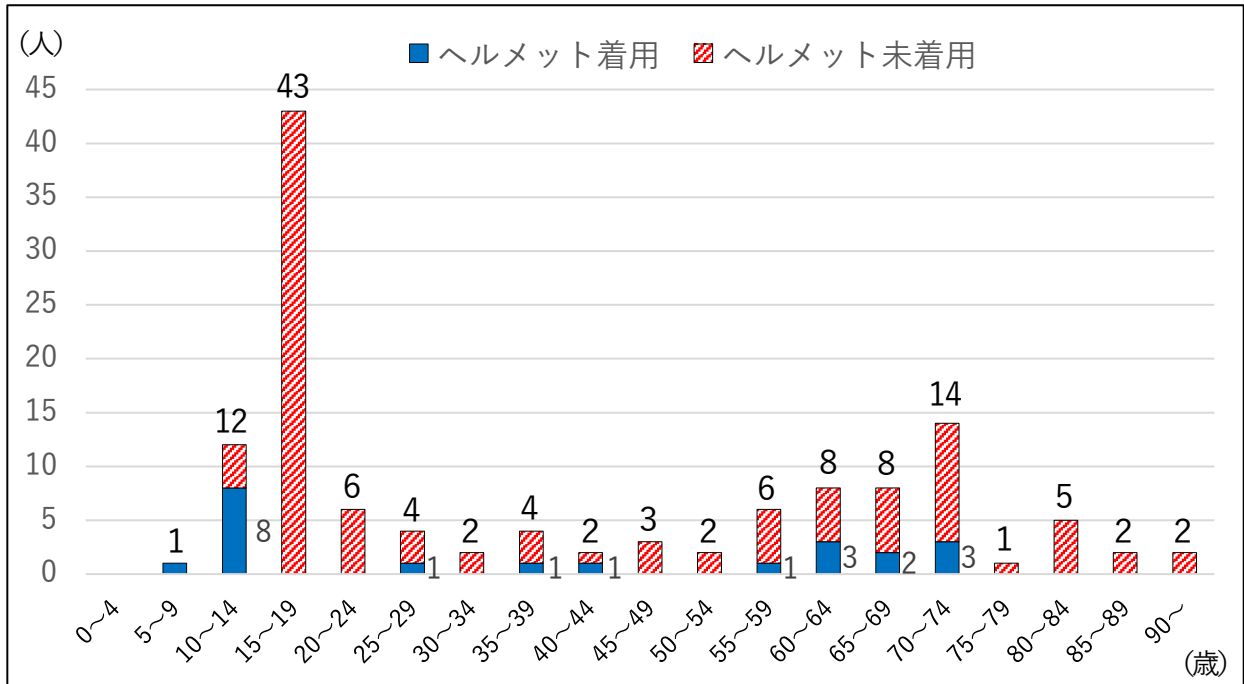
このうち事故発生時に「ヘルメット着用あり」は21人（16.8%）、「ヘルメット着用なし」は104人（83.2%）でした。



■ 年齢区分別の救急搬送人員とヘルメット着用の有無

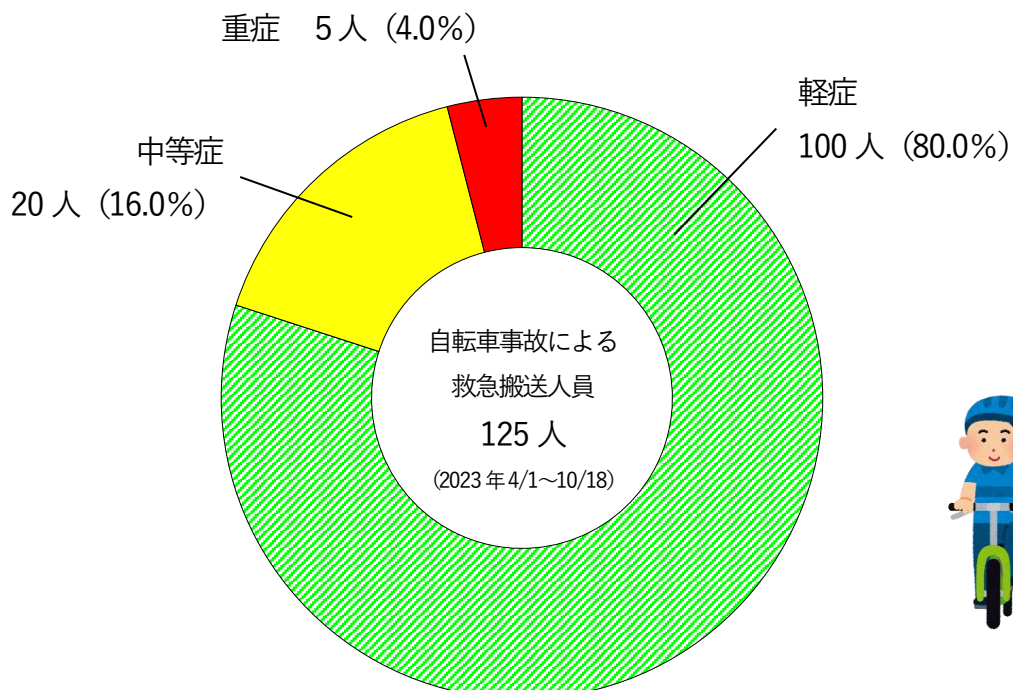
年齢区分別の救急搬送人員をみると、「15 から 19 歳」が最も多く 43 人（34.4%）、次いで「70 から 74 歳」が 14 人（11.2%）、「10 から 14 歳」が 12 人（9.6%）と続きます。

一方でヘルメットの着用状況をみると、最も多く救急搬送されている「15 から 19 歳」では着用率が 0% であることがわかります。



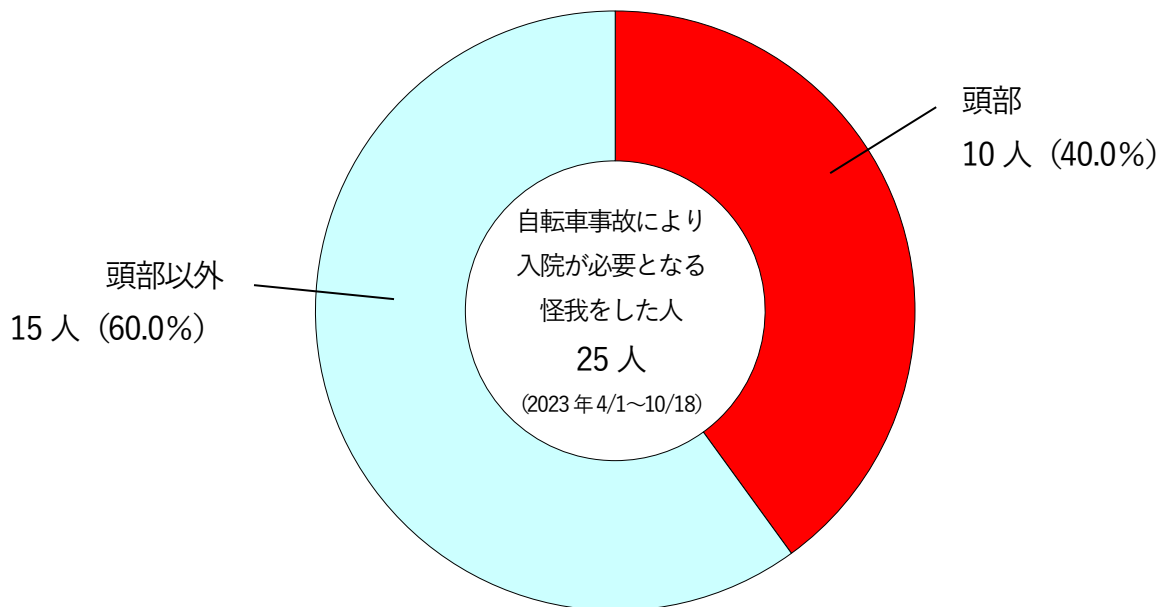
■ 症状程度別の救急搬送人員

症状程度別にみると、「軽症」が 100 人（80.0%）、「中等症」が 20 人（16.0%）、「重症」が 5 人（4.0%）と、全体の 2 割が入院が必要な怪我をしていることがわかります。



■ 入院が必要な「中等症」「重症」の頭部の怪我の割合

入院が必要な怪我をした場合の怪我の部位をみると、40.0%（10人）が頭部の怪我をしていることがわかります。



■ 入院が必要な「中等症」「重症」の骨折等の割合

入院が必要な怪我をした場合の症状の割合をみると、44.0%（11人）が骨折等（骨折の他、頭部の内出血）の怪我を負っていることがわかります。

